

■ 11月24日（水）

梅雨空のもと始まった今年度の調査もいよいよ終了間近。日に日に寒さが強まります。

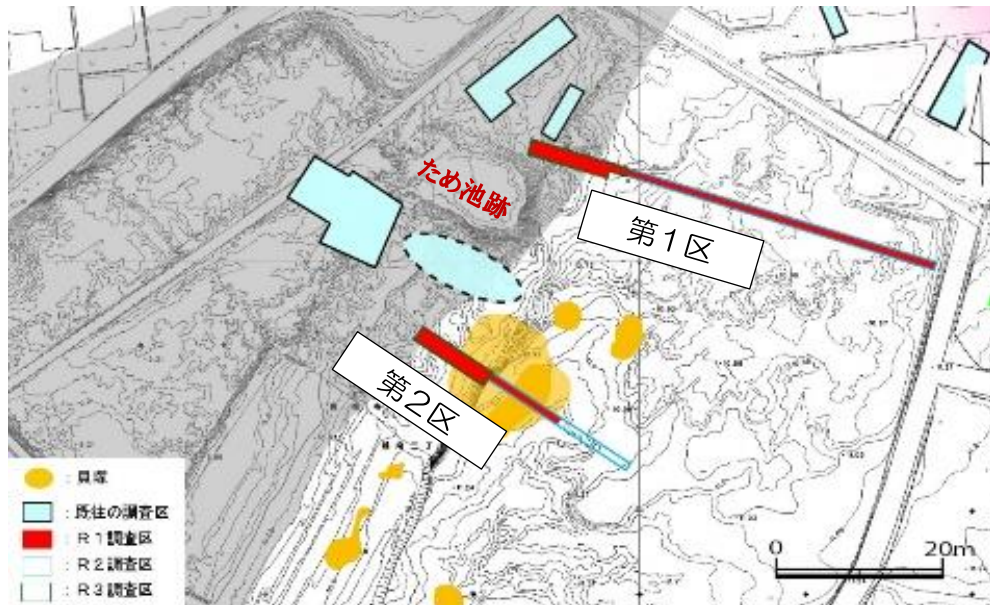


図1 調査区の位置

① 1区（北側の調査区）の調査

調査区西端から 4m までの範囲に分布する 2b 層（黒色土）下部の掘り下げを行いました（写真1）。2b 層の下には暗黄褐色土の 3 層が堆積しており、斜面上方では一部 3 層も掘り進めました（写真1の上方）。

調査区南側の壁面では、1 層としたローム質の黄褐色土層や 2a 層（暗褐色土）、2b 層（黒色土層）の連続した堆積がよく観察できます（写真2）。一方、調査区北側の壁面では、1 層が南壁よりも 30 cm ほど厚く堆積する一方で、2b 層とした黒色土の堆積が薄



写真1 2b層の調査

令和3年（2021）

いなど、2m離れただけでかなり堆積の様子が異なっていることが観察できました（写真3）。



写真2 1区調査区南壁で観察される土層堆積状況



写真3 1区調査区北壁で観察される土層堆積状況

令和3年（2021）

2b層（黒色土）が厚く堆積する調査区南側では、大型の破片が多く集積していました（写真4）。遺物は晩期の安行3b式を主体としていました（写真5）。

今年度はこれらの遺物を取り上げて、掘削作業を終了しました。来年度は2b層およびそれより下層の掘り下げを行い、真福寺人たちの活動によって変容するまでの地形を明らかにしたいと思います。



写真4 大型土器破片が集積



写真5 安行3b式の深鉢形土器

令和3年（2021）

■ 11月24日（水）

梅雨空のもと始まった今年度の調査もいよいよ終了間近。日に日に寒さが強まります。

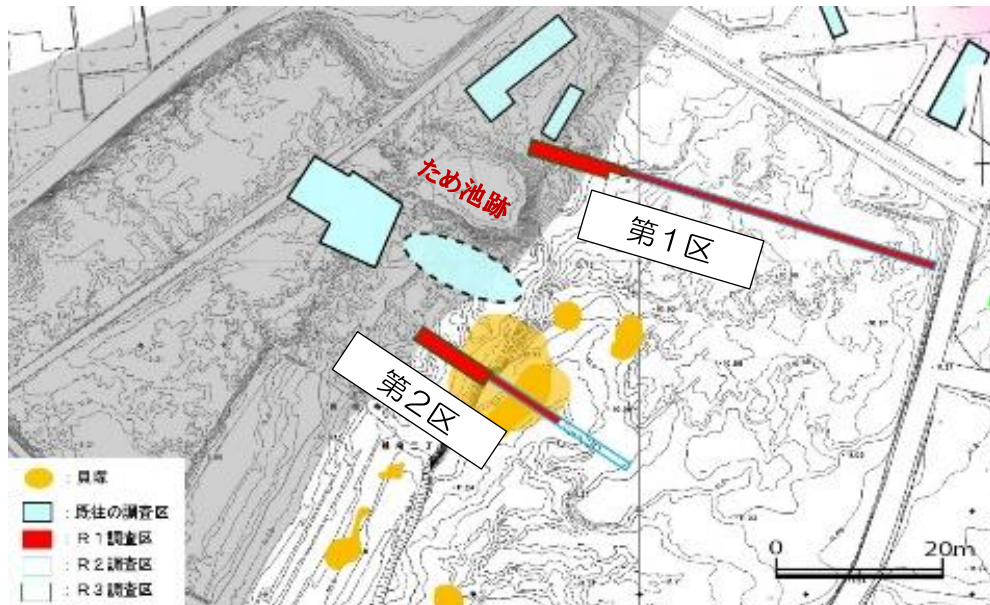


図1 調査区の位置

② 2区（南側の調査区）の調査

調査区西端から約4mまでは地山であるローム層を検出しました（写真1）。地山までの深さは、調査区西端で約2mありました。

調査区西側（斜面下方）では、後期前葉堀之内2式から後期末葉安行2式までの斜面堆積層が約13枚堆積していました（写真2）。

堆積の特徴として、地山に近い後期前葉堀之内2式と後期中葉加曾利B2式期までの下層の堆積は、地山の傾斜に近く緩やかで、広く分布しているのに対して、加曾利B3式以降の上層の



写真1 2区の全景

令和3年（2021）

堆積は、小規模で地山よりも急傾斜をなして堆積するという違いが見られました(写真3)。



写真2 2区西側で観察される約13枚もの斜面堆積層



写真3 上下で対照的な土層堆積状況

令和3年（2021）

一方、斜面上方（東側）は地山までの完掘には至らず、斜面貝層がまだ堆積しています（写真4）。貝層の時期は、後期中葉加曾利 B1 式です（写真5）。地山までは、貝層を含めて約 30～60 cmと深さが一様ではありません。来年度は貝層の下に遺構が存在する可能性について留意しながら、完掘を目指してまいります。



写真4 調査区東側の斜面上方



写真5 貝層からは加曾利 B1 式が出土